

先天性心疾患をもつ幼児の主体性を育むための 看護支援モデルの開発と実装

看護学科 小児看護学領域 田畑 久江 准教授



Q. どのような研究をされていますか？

A. 生まれつきの心臓の病気である先天性心疾患は医療の進歩により生命予後が改善されている一方で、思春期・成人期を迎えた患者さんの中には服薬・通院の中断や、自分の疾患への理解の低さなどの問題があることが明らかとなっています。先天性心疾患をもつ子どもの親御さんは、我が子が出生して間もない頃から代理で説明を受け重要な意思決定をし、子どもは幼少期によく理解できない頃から治療や痛みを伴う処置がなされる経験、つまり主体的になりにくい経験をしています。先天性心疾患をもつ子どもが周囲のサポートを得ながら自分のからだや疾患を管理していくためには、疾患を自分のことと捉える必要があり、幼い頃から主体性が育まれる必要があると考えました。そこで、先天性心疾患をもつ子どもに幼い頃からかかわる看護師が活用できる、子どもの主体性を育むための看護支援モデルの作成に取り組んでいます。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 先天性心疾患をもつ子どもとそのご家族に焦点を当てて研究に取り組んできました。先天性心疾患をもつ幼児・学童とその親御さんにインタビューをしたところ、親御さんから疾患について説明されていないと子どもからは尋ねにくく、親子で疾患の話題をもちにくいことがわかりました。子どもが聞きたい時に聞ける環境を作りたいと考えました。そこで、「子どもの主体性」という概念を分析し、子どもの主体性に影響する【周囲の大人の働きかけ】を基盤として「先天性心疾患をもつ幼児の主体性を育むための看護支援モデル」の作成に取り組みました。看護支援モデルの作成には、全国 48 施設 84 名の熟練看護師の皆さまにご協力いただき、さらに 8 名の熟練看護師に試行してもらい、ご意見をいただきました。現在は、外来の看護師さんにご協力いただき、外来での看護支援モデルの活用と実装についての調査に取り組んでいるところです。



Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 先天性心疾患をもつ子どもの主体性を育む環境があたりまえになるよう、看護支援モデルの改良を進めていきます。また、先天性心疾患だけでなく病気をもちながら成長・発達していく子どもたちにも活用できるよう検討していきたいです。

これからも子どもたちの健康と笑顔のために看護師にできることを考えていきます。

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- 小児看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_syouni.html

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻小児健康看護学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc000000149i.html